

平成17年第1回 野生生物の生物学的知見検討会 議事要旨

- I 日時：平成17年8月30日（火）14：00～16：00
- II 場所：経済産業省別館11階1111号会議室
- III 出席委員：大島康行（座長）、岩松鷹司、倉本満、酒泉満、端憲二、村田幸雄、渡邊信
オブザーバー：花里 孝幸（野生生物の生物学的知見研究班班長）（敬称略）
事務局：上家環境安全課長他

IV 議題

- 1 平成17年度 ExTEND2005 野生生物の生物学的知見研究課題について
- 2 その他

V 議事要旨

(1) ExTEND2005 における野生生物に関する生物学的知見の基本的方向性について事務局から説明の後、検討が行われた。

【委員からの主な意見】

- ・自然界では実験室と異なり絶えず変化する要因があるため、調査研究は非常に難しい。
- ・個体レベルでの行動や機能の変化と同様、個体群レベルの変化についても現象把握が重要。
- ・普通種については評価に使用できるようなデータが無いことが多い。この事業でデータの収集に寄与できれば良い。
- ・野外実験も実施してはどうか。
- ・種が集団としてどういった状態にあるのか把握することが重要。

(2) 平成17年度研究課題として、「課題1. 魚介類におけるダイオキシン類蓄積量の比較」「課題2. POPs 及び候補物質による日韓沿岸及び近海の野生生物汚染の実態解明」「課題3. 雌雄同体性魚類の性の可塑性と社会構造に関する研究」「課題4. 魚や水草の放流や移入による湖沼生態系かく乱の実態とそのメカニズムの解明」が提案され、この内容について各研究代表者が発表を行い、審議が行われた。

【委員からの主な意見】

- ・課題に類似した研究について情報収集が必要である。
- ・生態系の構成事態を把握した上でなければ、事実を見誤る。異変が生じたときに、その原因について幅広く知見を収集する必要がある。
- ・今後、現在の課題以外の研究課題設定についても検討していくべきである。
- ・地域レベルで活動しているグループが持っている野生生物に関する情報や既存文献の収集が必要である。

(3) 身近な野生生物の観察事業について報告された。

以上